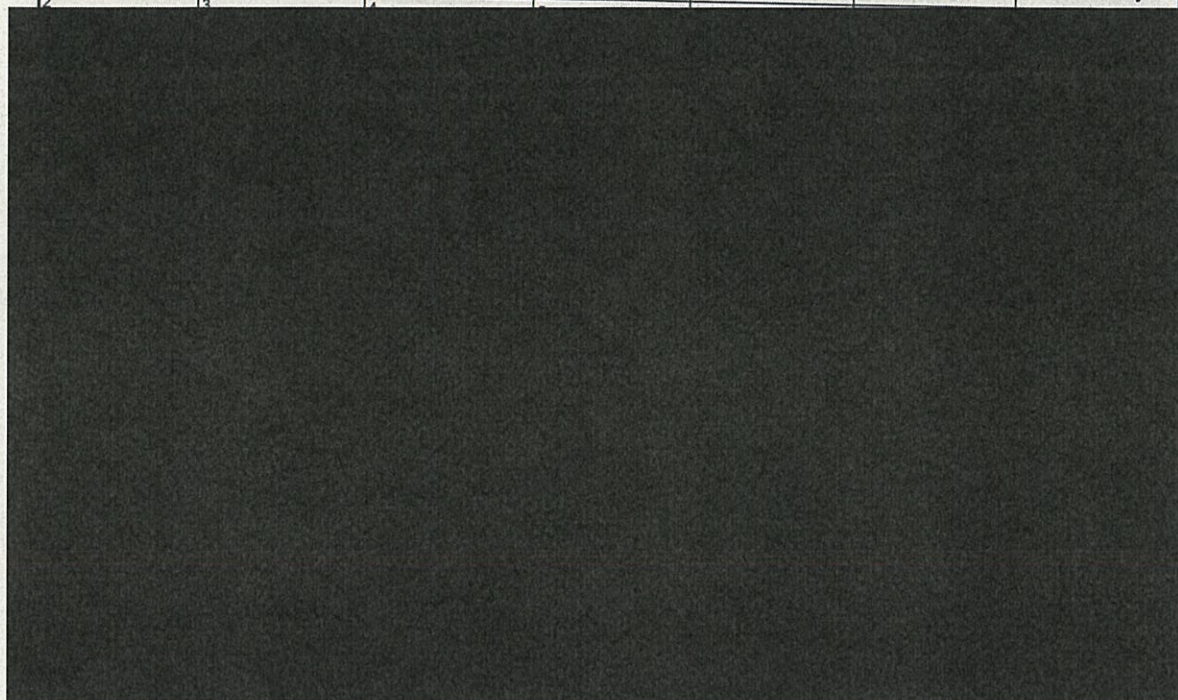


2006年4月

別紙第2

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
2	3					



バグダッド日誌（4月15日）

○我が家に帰ったような感覚

昨日夕にR&Rを終了し、バグダッドに到着した。バグダッド空港に到着したとき感じたのは、まさに「我が家に帰ってきたような感覚」であった。

R&Rについて紹介したい。R&Rに出発してクウェートに到着し、キャンプ・バージニアで武器をクウェート分遣班に預かってもらった。バグダッドでは、24時間肌身離さずに武器を携行していたため、「武装解除された」という感覚を強く持ち、バージニアの食堂に行く時も「銃を忘れた！」と思い腰に手をやる事がしばしばあった。（バグダッドでは武器を携行していないと食堂にすら入れない。）体育館へ行っても迫撃砲の脅威を感じることなく自由にトレーニングができる。もっとも嬉しかったのは外でジョギングができることであった。（米軍はバグダッドでもガンガン走っているが、日本隊は禁止している。）暑さなんて関係なくキャンプの外周8kmのランニングを満喫できた。

ドバイに移動して暫くは、風でドアが閉まる音にも砲弾のように敏感に反応していた。夜に日本料理店で日本酒をなめつつ、寿司をつまんだ。その日本料理店では日本の歌謡曲が流れており、日本に戻ったかのような錯覚を覚えた。私の好きな夏川りみの「涙そうそう」が流れた時、何故か分からないが止めどなく涙が流れてきた。緊張が解けたのか、疲れていたのか、郷愁にかられたのか分からないが、自分ではコントロールできない不思議な感覚であった。

翌日の早朝に家族がドバイに到着し、久しぶりに再会した。痩せてしまった私を見て少し心配そうであったが、お陰で日本に居る時には考えられない位妻は優しく、娘は聞き分けが良かった。夢のような4日間を過ごし、心身共に完全にリフレッシュすることができた。

キャンプ・バージニアに戻ると今度はバグダッドに戻りたいという気持ちになっている自分が居ることに気づいた。表現が適切かどうか分からないが、「飼い猫がお腹を見せ安心してくつろいでいるのも良いが、大草原のカモシカが脅威を意識しながら草を食む場所に戻りたい。」という感覚のように思った。今日からまた鞭を締め直して頑張りたい。